

国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)

国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業
(BOOST)

次世代 AI 人材育成プログラム (博士後期課程学生支援)

東京都立大学

次世代 AI を志向した領域リフレーミング
(Arena Reframing : AR)

双対型博士人材育成プロジェクト

令和 6(2024)年度 応募要領

はじめに

国立研究開発法人科学技術振興機構（以下「JST」という。）は、この度、「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業 次世代 AI 人材育成プログラム（博士後期課程学生支援）（以下、「本プログラム」という。）」を創設し、緊急性の高い国家戦略分野として、AI 分野及び AI 分野における新興・融合領域（次世代 AI 分野）の人材育成及び先端的研究開発を推進する事業を開始しました。

AI の研究開発は、人間の知的作業に急速な変革をもたらし、産業、研究開発、教育、創作など様々な分野に波及し、イノベーションの源泉としてニーズが高いため、国際的に高度な専門性を持つ AI 人材の獲得競争が生じ、人材が不足している状況にあります。

本プログラムは、同分野に資する研究開発に取り組もうとする博士後期課程学生に対して、十分な生活費相当額及び研究費を支援することで、当該国家戦略分野の研究者層を厚くし、イノベーション創出や産業競争力を強化することを狙うものです。

本プログラムの採択を受け、東京都立大学（以下「本学」という。）では、次世代 AI 分野に特化した東京都立大学領域リフレーミング（Arena Reframing: AR）双対型博士人材育成プロジェクト（以下「本プロジェクト」という。）を実施します。

1. 目的

本学は、2024 年度より学問分野のマッチングを再構築し、新たな領域（場）のリフレーミングを志向した「領域リフレーミング（Arena Reframing : AR）双対型博士人材」プロジェクトを開始しました。領域リフレーミングでは、自身の専門分野を軸足に置きつつ、研究領域空間で興味のフレームを複数方向に広げて研究領域を拡大し、領域（アリーナ）の創成を促すことのできる人材育成を掲げています。本プロジェクトでは、この AR 双対型博士人材に、強化分野として次世代 AI 分野へと方向を展開できる人材（主専門+次世代 AI 分野）の育成を目的とします。

本プロジェクトでは、次の3つの育成像を設定し、博士後期課程修了後にいずれかの人材像にかなう者を募集します。

- ① AI 分野のアルゴリズム開発やデータ駆動科学等、次世代 AI 分野における先端研究に直接参画するような高度専門人材
 - ② 研究対象の性質や特徴を理解し、AI とのマッチングを考えることで、研究・開発にブレイクスルーをもたらすことができるような高度専門人材
 - ③ これまで AI が活用されていなかった研究分野に対して、積極的に AI を活用し新たな方向性を開拓するような高度専門人材
- ◆ 領域リフレーミング（Arena Reframing : AR）とは…従来の学問領域や分野の枠組みを独自の視点でとらえなおすことで、新しい視点や考え方を取り入れることを指します（主専門分野+他分野）。すなわち、従来の枠組みに囚われず、異なる学問領域や分野を縦横無尽に組み合わせ再構成し、その中で新たな洞察やアイデアを生み出すことを意味しています。従来の学問分野を超えて、新たな「領域（アリーナ）」の創出のために、新しい視点や発想を取り入れ組み合わせることが「領域リフレーミング」の本質です。領域リフレーミング

により、学際的な研究やイノベーションが促進されることを目指しています。

- ◆ 次世代 AI 分野の例…一般的な科学技術分野で見られる次世代 AI 分野に該当する具体的な学問領域の例は次のようなものがあります。コンピュータサイエンス、機械学習、データマイニング、自然言語処理、情報学、バイオインフォマティクス、ジオインフォマティクス、数学、統計学、電子工学、ロボティクス、制御工学、生命科学、コンピュータシミュレーション、経済学、計量経済学、医学、ヘルスインフォマティクス等。ただしこれらの例に限ったものではなく、自身の研究が次世代 AI 分野あるいはそれに関連する分野であると説明できれば、専門分野は問いません。

2. 内容

本学は、JST の「国家戦略分野の若手研究者及び博士後期課程学生の育成事業 次世代 AI 人材育成プログラム（博士後期課程学生支援）」として実施される本プロジェクトの支援を通じて、研究活動に専念して研究力の向上を図ることができる環境（「6. 経済的支援」を参照）を整備し、キャリア形成支援および次世代 AI 分野人材に必要とされる各種プログラムを提供します。よって本プロジェクト採用学生は、研究力の向上に邁進するとともに、本学が提供する研究力強化、異分野との連携、キャリア形成支援、次世代 AI 分野人材に必要とされる各種プログラム等を受講し、プロジェクトに積極的に取り組むことが求められます。本プロジェクトの趣旨をよくご理解いただいた上でお申し込みください。

3. 申請対象者

- (1) 全研究科において、次世代 AI 分野またはそれに関連する分野の研究を実施している（あるいは実施予定の）博士後期課程の学生
- (2) 我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う志を持つ者であり、国内外の学会発表・論文・産学連携・国際共同研究等の研究成果をあげられる学生（支援期間中、自身の AI 研究についての学会発表や論文発表を基本的に必須とします。）。

4. 採用予定人数（年次は 2024 年 4 月 1 日時点）

博士後期課程 1 年次：3 名

5. 採用期間

2024 年 8 月 1 日から 2027 年 3 月 31 日までの最大 2 年 8 カ月年間（標準修業年限内での支援）となります。ただし 2023 年 10 月入学（秋入学）の方については最大 2 年 2 カ月が支給期間となりますのでご注意ください。

6. 経済的支援

- (1) 研究奨励費（生活費相当額）：年額 330 万円
- (2) 研究費（直接研究費）：年額 60 万円

現在、既存のプロジェクト等に採用されている学生については、研究奨励費の月額支給額に調整が入る場合がありますので、個別にお問合せください。

7. 応募資格

以下の(1)～(3)の要件を全て満たす者とします。

- (1) 2024年4月1日時点において東京都立大学大学院学則（平成17年度法人規則第49号）第3条第2項に規定する博士後期課程に応募時に在籍し、2024年4月時点において在学期間が12ヵ月未満の者。ただし、休学期間（休学期間の合計が6ヵ月以上の場合に限る）は、在学月数には含まない。
- (2) 次世代AI分野またはそれに関連する分野の研究を実施している者。ただし、実施予定の者も含まれる。
- (3) 本プロジェクトの趣旨や義務を十分に理解し、それらに同意する者。

ただし、採用開始時点において、次の(4)～(9)のいずれかに該当する者は、対象外とします。

- (4) 国費外国人留学生等制度による支援を受ける留学生又は東京グローバルパートナー奨学金プログラムにより受け入れる留学生のいずれかに採用されている学生
- (5) 本国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- (6) 所属機関から生活費相当額として年間240万円を超える給与、役員報酬又はその他の安定的な収入を得ている者^{※1}
- (7) 休学中の者
- (8) 東京都立大学大学院学則（平成17年度法人規則第49号）第15条に規定する長期履修制度適用者^{※2}
- (9) その他本プロジェクトの対象外となる者^{※3}

【注意】日本学術振興会特別研究員、東京都立大学領域リフレーミング（Arena Reframing: AR）双対型博士人材育成プロジェクト、及び東京都立大学博士研究力強化プロジェクトに採用されている学生も申請は可能ですが、本プロジェクトに採用された場合は現在採用されているプロジェクト等を辞退いただきます。

※1：資格確認のために、収入に関する証明書類等の提出を求めることがあります。

※2：出産、育児、疾病等の事由による長期履修制度適用者は除きます。

※3：別の公的研究費により支援を受けている者であって、当該公的研究費側に応募制限がある場合等を指します。

8. 採用学生の履行義務

本プロジェクト採用学生は、次に掲げる全ての事項を行わなければなりません。

- (1) 東京都立大学における研究活動上の不正行為に関する規則等に定める責務を果たすこと。
- (2) 本学が指定する研究倫理教育を履修すること。
- (3) 毎年度、所定の研究活動報告書を、期日までに提出すること。
- (4) 毎年度、事業統括が指定する成果報告会にて年次報告を行うこと。
- (5) 毎年度、メンターとの面談を行うこと。
- (6) JST が本プロジェクトのために実施する学生交流会等の諸行事に参加すること。
- (7) 文部科学省科学技術・学術政策研究所（NISTEP）の博士人材データベース（JGRAD）に登録すること。
- (8) 本学及び JST が実施する各種調査に協力すること。
- (9) 本学及び JST が実施する博士課程修了後の追跡調査に協力すること※4。

※4：本プロジェクトは、JST からの助成により実施しているため、支援期間終了後 10 年程度、就職等の追跡調査を行うこととなっています。支援期間終了後にも連絡することがありますので、連絡先のメールアドレスが変更になった場合は必ず事務局へご連絡ください。

9. 採用学生への推奨事項

本プロジェクト採用学生は、次に掲げる事項について、積極的に対応することが推奨されます。

- (1) 海外への研究留学活動や研究インターンシップ活動を行うこと。
- (2) 学内外のキャリア・トランスファラブルスキル獲得のためのイベント等に参加すること。
- (3) 異分野融合に係る各種活動を積極的に実施すること。

10. 採用取消等

- (1) 本学学生の身分を失った場合
- (2) 本学を休学した場合（出産、育児、疾病等を除く。）
- (3) 大学院学則に基づき懲戒処分を受けた場合
- (4) 特別研究員に採用された場合（採用辞退の場合を含む。）
- (5) 国費外国人留学生等制度又は東京グローバルパートナー奨学金プログラムにより受け入れる留学生のいずれかに採用された場合
- (6) 留学生として本国から奨学金等による支援を受け入れる場合
- (7) 上記(4)から(6)以外の重複受給不可とされている奨学金等受給生に採用された場合
- (8) 年間 240 万円を超える給与、役員報酬又はその他の安定的な収入を得る場合
- (9) 長期履修制度適用者となった場合（出産、育児、疾病等の事由での適用者を除く。）
- (10) 「8. 採用学生の履行義務」に定める義務を履行しなかった場合又は「8. 採用学生の履行義務」に定める指定の研究活動報告書により、研究活動の履行状況が不十分と認められた場合
- (11) 東京都立大学研究費の不正使用防止に関する規則（平成 19 年度法人規則第 11 号）第 2 条第 1 項第 2 号に規定する研究費の不正使用又は東京都立大学における研究活動の不正行為等

の防止に関する規則（平成 19 年度法人規則第 68 号）第 2 条第 1 項第 2 号及び第 6 号に規定する不正行為等があったと認められた場合

(12) その他学長が採用学生として適当でないと認めた場合

なお、研究奨励費の支給等を受けるまでの間又は支給期間中に、上記のいずれかに該当した場合は、採用学生の資格を取り消し、既に支給した研究奨励費及び研究費の一部又は全部の返還を求めることがあります。

11. 選考方法

以下の(1)、(2)の二つの審査を行い、合議審査により決定します。

(1) 書類審査：選考申込書による書類審査

(2) 面接審査：自身の研究及び今後の計画などのプレゼンテーション・質疑応答

12. 選考基準

- (1) 学術研究を独創的に遂行することができるか。
- (2) 異分野融合（隣接諸分野の横断・連携を含む）を志向する姿勢があるか。
- (3) 学術研究の公共的な価値を熟考しているか。
- (4) 他者（専攻分野及び異分野の学生・教員・企業人を含む）と協調して主体的に問題解決に取り組むことができるか。
- (5) 博士号取得後の将来像を描いているか。
- (6) 研究領域を主専門と多分野の両軸で捉え直そう（考え直そう）としているか。
- (7) 次世代 AI 分野との接合を思索しているか。

13. 応募手続き

(1) 募集期間

2024 年 5 月 16 日（木）～5 月 31 日（金）12：00（正午）（日本時間）【締切厳守】

(2) 応募書類

①～②の様式については、以下 URL よりダウンロードして作成してください。

URL：<https://research-miyacology.tmu.ac.jp/human-resources-support/student-recruitment/>

① 選考申込書（必須）

② 同意書（必須）^{※5※6}：応募者は、応募前に必ず指導教員に同意書の作成を依頼し、応募者本人が選考申込書と一緒に提出してください。指導教員の情報及び「1. 確認事項への同意」は必須です。「2. 指導教員の所見」については、任意となります。なお、同意書の提出がなされない場合は、採用内定の取消となる場合があります。

(3) 応募書類提出方法及び提出先

東京都立大学博士人材支援室事務局 応募申込フォーム

URL：<https://research-miyacology.tmu.ac.jp/human-resources-support/student-recruitment/>

① 上記 URL に掲載されている「応募申込フォーム^{※7}」に必要事項を入力し、応募書類を添付

※⁸して送信してください。

② 上記 URL における応募申込フォームには、東京都立大学付与のアカウント (@ed.tmu.ac.jp) によるサインインが必要です。

③ 送信後、応答受信のメールが届かない場合は、事務局まで個別にご連絡ください。

※5：同意書は、指導教員に作成依頼してください。

※6：審査において、審査委員が「2. 指導教員の所見（任意）」に記載の情報を必要に応じて参照する取扱いとします。

※7：応募申込フォームの入力事項（以下）についても審査に必要な項目として取り扱います。

- ◆ 氏名
- ◆ フリガナ
- ◆ ローマ字氏名
- ◆ 生年月日（西暦）
- ◆ 性別
- ◆ 学修番号
- ◆ 所属研究科
- ◆ 所属専攻（学域）
- ◆ 現在の学年
- ◆ 博士後期課程における休学期間の有無、休学期間
- ◆ 博士後期課程の修了時期（予定）
- ◆ 各種通知用メールアドレス
- ◆ 自宅電話番号
- ◆ 携帯電話番号
- ◆ 郵便番号
- ◆ 住所
- ◆ 指導教員の氏名
- ◆ 指導教員の研究科・専攻（学域）
- ◆ 指導教員のメールアドレス
- ◆ 2023年1月1日～12月31日の期間に企業等から生活費相当額（240万円）を超える収入を得ているか
- ◆ 2024年度採用分日本学術振興会特別研究員（DC）採用の有無
- ◆ 留学生に対する奨学金受給の有無、奨学金名
- ◆ 卓越大学院プログラム採用の有無
- ◆ 長期履修制度適用の有無
- ◆ 「東京都立大学領域リフレーミング（Arena Reframing：AR）双対型博士人材育成プロジェクト」「東京都立大学博士研究力強化支援プロジェクト」採用の有無
- ◆ 研究課題名

※8：応募者は、「①選考申込書」「②同意書」を PDF ファイルに変換して添付してください。「①選考申込書」「②同意書」のファイル容量は 10MB 以内とし、ファイル名はそれぞれ以下のとおりとしてください。

- ① 「学修番号（半角数字）_研究科名_応募者氏名_01 選考申込書.pdf」
（例：22111111_理学研究科_都立太郎_01 選考申込書.pdf）
- ② 「学修番号（半角数字）_研究科名_応募者氏名_02 同意書.pdf」
（例：22111111_理学研究科_都立太郎_02 同意書.pdf）

【留意事項】

- ・複数回送信された場合は、最終日付のものを受理いたします（受付終了後の資料の差し替えはできませんので十分確認のうえ、ご提出願います。）。

14. 申込後の採用スケジュール・通知日

本プロジェクトの今後のスケジュールは以下のとおりです（予定は変更になることがあります）。

実施期間	項目
2024年5月16日（木）～5月31日（金）（正午）	応募受付
2024年5月16日（木）	学内説明会
2024年6月3日（月）～6月21日（金）	書類審査
2024年6月23日（日）	面接審査（プレゼンテーション及び 質疑応答）※9 南大沢キャンパス実施
2024年7月初旬	採否結果通知
2024年7月初旬	誓約書等提出
2024年7月中	採用者個別説明
2024年8月1日	プロジェクト開始

※9：審査の時間は実施日の1週間前までに応募申込フォームに入力されたメールアドレスに通知します。通知した面接審査日時の変更は、いかなる理由でも受け付けません。

15. 指導教員の協力等

本プロジェクトにおいては、指導教員に以下の協力を求めます。応募にあたっては、必ず事前に以下について確認してください。

- (1) 毎年度事業統括の指定する成果報告会に指導教員として出席します。
- (2) 学生がジョブ型研究インターンシップに登録することについて承知します。
- (3) 学生が研究力向上やキャリア開発・育成コンテンツ科目の受講や活動を行うことについて理解を示します。
- (4) 指導学生に、学内外の有識者がメンターとなることについて了承します。

16. 応募に関する注意事項

- (1) 応募受付終了後は、どのような事情があっても、入力事項及び書類の変更は認めません。
- (2) 応募手続等について変更があった場合は、本学の総合研究推進機構 HP (<https://research-miyacology.tmu.ac.jp/>) にて通知します。
- (3) 応募にあたって知り得た氏名、住所その他の個人情報については、①選考(申請処理、選考実施)、②採用者発表、③採用手続業務を行うために利用することがあります。また、同個人情報情報は、採用者のみ、①教務関係(学籍、修学等)、②学生支援関係(就職支援等)、③本プロジ

エクト関係に関する業務（研究力向上、キャリア支援、教育工学的視点からのプロジェクト評価改善等）を行うために利用することがあるとともに、文部科学省、JST に提供することがあります。

- (4) 透明性確保の観点から所属や氏名は公表されることがあります。
- (5) 応募書類における記載内容について虚偽の記載をした者は、採用後においても遡って取消すことがあります。

17. 経済的支援に関する注意事項

- (1) 研究奨励費は税法上「雑所得」として扱われるため所得税、住民税の課税対象となりますので、毎年度採用学生自身による確定申告が必要となります。確定申告の方法については、国税庁のホームページを参照してください。
- (2) 研究奨励費は税法上雑所得として扱われること等を扶養義務者（親等）に伝えるとともに、健康保険や扶養手当等における扶養の扱いについては、扶養義務者（親等）の職場等の担当者にお問い合わせください。また、所得税における扶養の扱いについては、近隣の税務署にお問い合わせください。
- (3) 本プロジェクトにおいては、採用学生と本学との間に雇用関係は生じませんので、社会保険等は採用学生自身による手続き・管理が必要となります。具体的な手続きについては、居住する市（区）役所又は町村役場にお問い合わせください。

18. その他注意事項

- (1) 本プロジェクトは JST からの助成により実施するため、支援内容については JST の方針あるいは指示により変更になる可能性があります。
- (2) **【再掲】日本学術振興会特別研究員、東京都立大学領域リフレーミング（Arena Reframing: AR）双対型博士人材育成プロジェクト及び東京都立大学博士研究力強化プロジェクトに採用されている学生も申請は可能ですが、本プロジェクトに採用された場合は現在採用されているプロジェクト等を辞退いただきます。**

19. 問い合わせ先

お問い合わせは、以下東京都立大学博士人材支援室事務局（公募専用）メールアドレスへ御連絡ください。

事業統括：堀田 貴嗣

理学研究科・物理学専攻・教授

副学長（研究・情報・都連携担当）

総合研究推進機構長/博士人材支援室長

東京都立大学博士人材支援室事務局（公募専用）：

E-Mail：soutsui_entry■jmj.tmu.ac.jp（■を@に変更してください）

TEL：042-677-1111(内線：5685・5682・5676)

以上